

## 子どもの日本語に挑戦！

カンボジア日本人材開発センター  
レイン 幸代

カンボジア日本人材開発センター（以下、CJCC）は、「ビジネス」「日本語」「日本文化」の3本の柱を中心に運営される教育青年スポーツ省傘下の独立運営組織です。国際交流基金はここで2004年から日本語関連の活動への協力を始め、2014年からは『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）を用いた日本語講座の運営を支援してきました。今回は、CJCCが初めて実施した「子ども向け日本語コース」についてご紹介します。

カンボジア、特にプノンペンでは私立の教育機関も増えてきました。そこでは、英語や中国語による教育を実施しており、経済的に余裕のある家庭は、子どもたちをそのような学校に通わせている人も少なくありません。それに対して、子どもに対する日本語教育は、日本人の子弟を対象とした日本人学校や補習校以外では、一部のインターナショナルスクールや地方の公立学校など、限られています。

しかしながら、カンボジアにおける日本への好感度は非常に高いです。保護者にとっても、我が子の第二の外国語として、日本語を選択する可能性は十分あります。そのような隠れたニーズに対応すべく、2022年4月、CJCCでは、子ども向け日本語コースを開講しました。

当初は『まるごと』の入門レベルの教科書を使っていました。文型シラバスではない『まるごと』は、子どもにも適していますが、場面設定はやはり子どもにとって馴染みが薄いものが多いと言わざるを得ません。そこで、子どもコースを担当している先生とも相談し、2023年11月から、『まるごと』を使わない子どもコースを開講することにしました。

1回の授業を60分とし、それを15分ごとに区切り、日本語を使った異なるアクティビティを行なうスタイルにしました。アクティビティは、市販の子ども向け教材や、オンライン上にある外国語教材のアクティビティを参考に、担当の先生と執筆者と一緒に考えました。たとえば形の言葉を勉強する時には、身の回りにある「三角」「四角」「丸」の物を探してみよう！と言って、子どもたちが教室を出て、壁にかかっている時計を指しながら「まる！」と言ったり、ドアを指して「しかく！」と言ったりしていました。

コースの最終日には「修了式」を行ない、修了書の授与や、一人一人の子どもたちに「皆勤賞」や「字が上手で賞」などの賞状を渡しました。そして、この日のために練習した日本語の歌とダンスを、保護者にご披露。コース修了後のアンケートでも高い評価をいただき、担当者ともどもほっと胸を撫で下ろしました。

2024年5月から、また次の子どもコースを開講します。今度は、国際交流基金カイロ日本文化センターで作成された「わくわくにほんご」をカンボジア向けに修正したものを利用すべく、現在

準備を進めているところです。教材をすべて自分たちで考えることは、子どもたちの興味やレベルに合った授業ができるというメリットがある反面、教師の負担は相当なものです。また、すべての教師ができるわけではありません。子どもコースを今後も持続可能なコースにするためには、メインとなる教科書を軸に据えた方がいいと考え、新しい学期では教科書を使ったコースを実施することにしました。子どもたちの反応がどんなものか、今から楽しみです。

「日本と日本語に親しみを持つ」ことをコースの目標に掲げ、何かを暗記させたり、テストをしたりということはあえて行いませんでした。子どもたちも授業に慣れるにつれて本性(?)を表してきて、時には「制御不能」という状況にもなり、本当にこの方法でいいのかなと不安になったこともあります。

でも一人の子が「いつか日本に行ってみたい!」と言ってくれた時、ああ、間違えていなかったんだな、と全ての苦勞が報われる思いがしました。クラスコントロールをしなければ!とガチガチに考えず、むしろ「子どもたちに授業を作ってもらおう」くらいのおおらかな気持ちを少しでも持てるようになることを、次学期の私の個人的な Can-Do (目標) にしたいと思います。



コース修了おめでとう!



自己紹介練習中

以上